

装備リスト

ヤムナスカのツアーで訪れる主なエリアの気温

- ホワイトホース** 冬の平均気温はマイナス15度から30度程度です。
ドーソン 冬の平均気温はマイナス20度から35度程度です。
イヌヴィック 冬の平均気温はマイナス20度から35度程度です。

日本ではあまり馴染みのない気温となるため、以下のリストを参考にしっかりとした準備を行いましょう。

※レンタル防寒具に関して（一部のツアーには含まれています。）

極寒地用の防寒具はレンタルが可能です。

5点セット：

アウタージャケット、オーバーパンツ、極寒地用ブーツ、アウターミトン、帽子

●メリット

- ・旅行時の荷物を大きく減らすことができる。
- ・極寒地仕様なので、現地の気候に対応していて安心
- ・購入するより安価

*現地到着後のお申し込みはご対応が難しい場合がございます。必ず事前に申し込みください。

*5点セットでのレンタルとさせていただきます。ジャケットのみなどにご対応しておりません。

出発地（日本など）からホワイトホースまでは、普段の冬の服装で問題ありません。機内が寒い場合がありますので、一枚羽織るものがあると快適でしょう。薄手の手袋や帽子などは手荷物でお持ちいただくとよいでしょう。

持ち物リスト

防寒 服装編	
持ち物	備考
必須品	
厚手のスキージャケット、 厳冬期用ダウンジャケット	【レンタルに含まれる】 綿入りで暖かく、表面が風を通さない素材
スキーパーツ、オーバーパンツ	【レンタルに含まれる】 綿入りで暖かく、表面が風を通さない素材

アウター手袋、ミトン	【レンタルに含まれる】 厚手の手袋、防風性や撥水性があるもの。 ミトンが保温性に優れる。
ニット帽子（厚手）	【レンタルに含まれる】 耳まで隠れ、保温性に優れるもの。
極寒地用ウィンターブーツ	【レンタルに含まれる】 ウィンターブーツ（マイナス20度仕様）では、つま先が痛くなることがあります。マイナス40~50度以下にまで耐えられるものが理想。
厚手フリース、薄手ダウンジャケット、厚手セーターなど	中間着として、ジャケットの下に着るもの、2枚程度違う種類を重ね着するのもお勧めです。
厚手シャツ、フリースジャケット	中間着の下に着る、または室内で利用
ズボン、パンツ	オーバーパンツの下に履く場合もあり、室内での利用する場合もある。
インナーウェア（インナー下着） 上下	長袖の下着、タイツのようなものが理想的です。乾きやすい綿ではない素材が好ましい。
ウール / 化繊の厚手の靴下	薄手二重履きもお勧め
薄手の手袋	インナー手袋として薄いものが理想的
ネックウォーマー / マフラー	首周りの保温はとても大切です。
あると重宝するもの（必須ではない）	
目だし帽	冷え込んだ場合役に立ちます。
ダウンパンツ	上記のズボン類以外にもあると重宝するでしょう。お持ちの場合ご持参されるといいかもしれません。

※中間着やインナー類は、乾きやすい化繊やウール混合などの機能素材がお勧めです。
 ※室内では、日本の冬季の服装でいいでしょう。**リストには普段着は記しておりません。**

日用品編	
 持ち物	備考
必須品	

懐中電灯 / ライト	足元を照らすために必要です。（スマホのライト機能でも可能ですが、両手が自由になるヘッドランプが断然お勧め）
サングラス	このエリアは日中の照り返しが強く、また紫外線も強いため、目を保護するものは必須です。
水筒 / ペットボトル	非常に乾燥しています。水を十分に補給できるようにしておきましょう。
常備薬	普段、服用している薬などがありましたら、ご持参ください。
あると重宝するもの（必須ではない）	
水着	ジャグジーがある宿泊施設を利用する場合、温泉にオプションツアーで参加する場合。
洗面具	シャンプー、石鹸はロッジにありますが、ご愛用の物があればご持参ください。
日焼け止め	紫外線が強いため、日中にアクティビティの際に有効です。
カメラ / その関連品	三脚、充電器、記録メディア、取り扱い説明書などご持参ください（ロッジは充電可）
カイロ	気温によって重宝します。
スリッパ / 室内履き	ロッジにもございますが、ご自身のものがあると快適でしょう。
スナック/インスタント食品	オーロラ鑑賞は深夜遅くまで楽しみますので、夜食代わりとなるものがあると良いでしょう。

※ご自身で防寒着 を用意する場合

冬のホワイトホースはその他の世界のオーロラ鑑賞地と比べて、人間が住めないほどの極地的な厳しさはありません。しかし素晴らしいオーロラが出た場合など、長時間外に出ているときにはやはり快適な防寒着は有難いものです。

ロッジ滞在の場合は、寒くなれば部屋へ戻ることができるとため、防寒着のレンタルはお客様のご判断にお任せします。オーロラ鑑賞はほとんど動かないため、通常より冷えやすく、装備も実際の対応気温よりもさらに対応幅が広いものが必要となります。たとえば、マイナス30度対応のブーツの場合、マイナス30度の気温ではすぐにつま先が痛くなってくるでしょう。

厳冬期に犬ぞりやアイスフィッシングなど野外でのアクティビティにご参加をお考えの場合は、適切な防寒着がないと参加できない場合もありますのでご注意ください。